Ⅱ.調査結果の概要

1　男女の地位に関する意識

１　各分野での男女の地位の平等感

●社会全体でみると『平等である』は 16.0%、『男性が優遇』されているが 74.0%

「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」をあわせた『男性が優遇』は「社会全体でみて」では、74.0%である。

分野別にみると、『男性が優遇』が大きな割合を占めるのは「社会通念・慣習・しきたりなど」80.0%、次いで「政治の場で」75.2%である。

「平等である」は、「学校教育の場で」が最も多く 61.6%となっている。

２　日常生活の中で男女の不平等を一番感じるところ

●「地域社会」が最も多く、次いで「職場」

日常生活の中で男女の不平等を一番感じるところは、「地域社会」が最も多く 30.9%となっており、平成 21 年度調査と比較して 0.6 ポイント上昇している。また、「職場」は、23.9%であり、1.6 ポイント上昇している。

３　「男性は仕事をし、女性は家庭を守るべき」という考え方

●「男性は仕事をし、女性は家庭を守るべき」という考え方に『同感しない』は 53.2%

「男性は仕事をし、女性は家庭を守るべき」という考え方に『同感する』（「同感する」と「どちらかといえば同感する方である」の合計）は 41.2%で、平成 21 年度調査と比較して、6.8 ポイント低下している。『同感しない』（「同感しない」と「どちらかといえば同感しない方である」の合計）は 53.2%で、7.0 ポイント上昇している。

４　「同感する」「どちらかといえば同感する方である」と考える理由

●「母親が家庭にいた方が、子どもの成長にとって良いと思うから」が 40.2%

「男性が仕事をし、女性が家庭を守るべき」という考え方に『同感する』理由は、「母親が家庭にいた方が、子どもの成長にとって良いと思うから」が最も多く、40.2%となっている。

５　「どちらかといえば同感しない方である」「同感しない」と考える理由

●「男女共に仕事と家事・育児・介護等の両方に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」が 43.7%

「男女共に仕事と家事・育児・介護等の両方に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」が 43.7%で最も多く、次いで「性別によって一律に役割を決めることはおかしいと思うから」が 24.6%である。

６　制度や用語の周知度

●『周知度』（「内容まで知っている」と「聞いたことはあるが内容は知らない」の合計）が

最も高いのは「セクシュアル・ハラスメント」97.5%であり、次いで「DV（ドメスティック・バイオレンス)」96.6%となっている。一方、周知度が低いのは「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」24.2%、「ポジティブ・アクション」36.7%となっている。

2　女性の働き方について

1　女性自身が考える理想の働き方と現実の働き方

●理想と現実ともに「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」が最も多い

女性自身の考える『理想』の働き方は、「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」(34.5%) が最も多く、次いで「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」(24.5%)、「仕事を続ける」(23.6%) が多くなっている。

一方、『現実』の働き方は、「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」(35.1%) が最も多く、次いで「仕事を続ける」(26.5%)、「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」(16.3%) が多くなっている。

2　男性が考える女性の理想の働き方

●男性の考える女性の『理想』の働き方は、「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」が最も多い

男性の考える女性の『理想』の働き方は、「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」(35.6%) が最も多く、次いで「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」(26.4%)、「仕事を続ける」(18.0%) が多くなっている。女性と比較すると、「仕事を続ける」が 5.6 ポイント下回っている。

3　女性が仕事を続けていくために必要なこと

●「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」が最も多い

女性が仕事を続けていくために必要なことは、男女ともに「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」が最も多く、女性では 70.3%、男性では 57.3%となっている。

4　管理職につく女性が少ない最も大きな理由

●女性では「女性は、家庭における責任を多く担っているため、責任の重い仕事につきにくいから」が最も多い

管理職につく女性が少ない最も大きな理由は、男性では「会社や組織の中に昇進・昇格に対する男性優先の意識や女性管理職に対する不安感があるから」(25.0%) と「女性は、家庭における責任を多く担っているため、責任の重い仕事につきにくいから」(24.5%) が同程度に多くなっている。女性では、「女性は、家庭における責任を多く担っているため、

責任の重い仕事につきにくいから」（38.0%）が最も多く、「会社や組織の中に昇進・昇格に対する男性優先の意識や女性管理職に対する不安感があるから」（28.3%）を 10 ポイント近く上回っている。

５　女性の活躍が進むのがよいと思う分野・立場

●男女ともに「国会・県議会・市町議会等の議員」が最も多い

女性の活躍が進むのがよいと思う分野・立場は、男女ともに「国会・県議会・市町議会等の議員」が最も多い（男性 48.4%、女性 51.9%）。男性では、次いで「自治会、ＰＴＡなどのリーダー」（42.2%）、「企業の管理職、労働組合の幹部」（40.3%）が多くなっている。女性では「企業の管理職、労働組合の幹部」（40.6%）、「国の省庁、県庁、市町の役所等の公務員」（40.6%）が多くなっている。

3　家庭生活や地域活動について

１　家庭内での男女の関わり方

●理想は「生活費を稼ぐ」ことも含めて「男性と女性が共同して分担」が最も高い

家庭内のことについて、男性、女性はどのような関わり方がよいか（理想を選択）についてみると、「生活費を稼ぐ」は「主に男性が分担」の割合が他の項目に比べて多いものの、家庭内のすべての事項について「男性と女性が共同して分担」が最も多くなっている。

●現実は「生活費を稼ぐ」は『主に男性が担っている』が多く、家事や育児は『主に女性が担っている』が多い

家庭内のことについて、実際の家庭では、男性、女性のどちらが行っているか（現実を選択）についてみると、「生活費を稼ぐ」は、『主に男性が担っている』（「主に男性が分担」と「主に男性だが女性も分担」の合計）が 82.9%と多く、「食事のしたく」や「掃除、洗濯」などの家事や育児については、『主に女性が担っている』（「主に女性が分担」と「主に女性だが男性も分担」の合計）が多い。また、自治会等の地域活動への参加は、男性が多くなっている。

２　男性が家事、育児、介護等に積極的に参加するために必要なこと

●「男性自身の抵抗感をなくすこと」や「育児休業や介護休業を取得しやすい環境」が多い

男性が家事、育児、介護等に積極的に参加するために必要なことは、男性では「夫婦や家族間のコミュニケーションを増やすこと」（42.4%）が最も多く、次いで「男性も育児や介護の休業をとりやすい環境にすること」（40.5%）が多くなっている。女性では「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」（44.6%）が最も多く、次いで「男性も育児や介護の休業をとりやすい環境にすること」（41.2%）、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動について評価を高めること」（40.9%）となっている。

３　男性が地域活動に積極的に参加するために必要なこと

●男女ともに「地域の中に仲間がいること」が多い

男性が地域活動に積極的に参加するために必要なことは、男女ともに「地域に仲間がいること」（男性 52.5%、女性 60.2%）が最も多くなっている。女性では、「男性が地域活動に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が 48.6%であり、男性（37.5%）を 11.1 ポイント上回っている。

4　仕事と生活の調和について

１　仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）についての考え方

●『同感する』は全体で 79.7%

仕事と生活の調和についての考え方に『同感する』（「同感する」と「どちらかといえば同感する方である」の合計）は 79.7%で、平成 21 年度調査と比較すると、5.1 ポイント上昇している。

２　生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度

●希望は「仕事と家庭生活と地域・個人の生活を共に優先」、現実は「仕事を優先」

生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度の希望は、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活を共に優先」が 29.6%と最も多く、次いで「仕事と家庭生活を共に優先」（28.7%）となっている。しかし、現実では「仕事を優先」が 31.5%と最も多くなっている。

３　仕事と生活の調和がとれる生活が実現された社会に近づくために職場における必要な取組

●「労働時間の短縮」や「管理職の意識改革」が上位

仕事と生活の調和が実現された社会に近づくために職場における必要な取組は、男性では「管理職の意識改革を行うこと」（40.8%）が最も多く、次いで「無駄な業務・作業・会議をなくし、労働時間を短縮する」（38.4%）、「社長や取締役などがリーダーシップを発揮してワーク・ライフ・バランスに取り組む」（37.8%）となっている。女性では「無駄な業務・作業・会議をなくし、労働時間を短縮する」（45.9%）が最も多く、次いで「管理職の意識改革を行う」（40.4%）、「育児・介護等の休業・休暇制度を充実し、育児・介護休業をとりやすくする」（40.4%）となっている。

5　女性に対する暴力について

1　夫婦や恋人など親しい人間関係の中で起こる暴力の経験

●「直接経験したことがある」が１割

夫婦や恋人など親しい人間関係の中で起こる暴力について、「直接経験したことがある」が 10.0%、「直接経験したことはないが、自分のまわりに経験した（している）人がいる」が 25.1%となっている。平成 21 年度調査と比較すると、「直接経験したことがある」は 0.5 ポイント、「直接経験したことはないが、自分のまわりに経験した（している）人がいる」も 0.8 ポイント上昇している。

2　夫婦や恋人の間で相手から暴力を受けたときに相談できる機関の周知度

●「警察総合相談（県民の声 110 番）」、「市町の福祉・女性・人権相談窓口」、「福祉事務所、保健所」が約３割

夫婦や恋人の間で相手から暴力を受けたときに相談できる機関の周知度は、「警察総合相談（県民の声 110 番）」が 33.4%で最も高く、次いで「市町の福祉・女性・人権相談窓口」（31.6%）、「福祉事務所、保健所」（29.3%）となっており、「いずれの相談機関も知らない」は 36.0%となっている。

6　男女共同参画社会について

1　理想の男女共同参画社会の姿

●男女ともに「男女が共に家事・育児・介護等の家庭生活に参画している」が最も多い

理想の男女共同参画の姿としては、男女とも「男女が共に家事・育児・介護等の家庭生活に参画している」（男性 52.7%、女性 66.8%）が最も多く、次いで「子育てや介護等と仕事が両立できる」（男性 37.3%、女性 44.1%）が多くなっている。

2　県立男女共同参画センターの周知度

●『周知度』は約 3 割、「利用したことがある」は 6.9%

県立男女共同参画センターの『周知度』（「利用したことがある」と「利用したことはないが知っている。」の合計）は 30.9%となっており、平成 21 年度調査と比較して 2.8 ポイント上昇している。「利用したことがある」は 1.1 ポイント減少している。

3　県立男女共同参画センターに期待する取組

●女性では、「女性の就労をサポートする就職相談や就職講座、就職情報の提供」が最も多い

県立男女共同参画センターに期待する取組は、男性では「男女共同参画に関する講演会、シンポジウム、フォーラム等の企画・開催」が最も多く、女性では、「女性の就労をサポートする就職相談や就職講座、就職情報の提供」が最も多くなっている。